

P 22 伝統医学のハーボミネラルに関する研究

-中国のハーボミネラルの抗酸化能:人体での検討-

○許 鳳浩(富山県国際伝統医学センター)
上馬場和夫(富山県国際伝統医学センター)
立瀬 剛志(富山県国際伝統医学センター)

【目的】中国伝統医学におけるハーボミネラルの代表は、防風通聖散である。防風通聖散は、金代の劉完素著の「宣明論中風論」にある薬方で、脂肪過多、便秘、上衝、鼻疾患、頭痛、高血圧、動脈硬化などに用いられてきた。18種類の生薬からなり、滑石、芒硝などの鉱物生薬も含んでいる。多くの生薬を含むため個々の生薬の研究だけでは、その薬効を推し量ることが困難であることから、防風通聖散を単回投与して、血液中に吸収された成分の作用を見ることとした(血清薬理学)。特に、人体内での抗酸化能への影響を検討した。

【方法】文書による同意を取得した健常若年成人男性18名を無作為に3群(実薬群:カネボウ防風通聖散細粒7.5g)、プラセボ群、アクティブ・プラセボ群(VE500+VC1000mg合剤)に割りつけた。富山県国際伝統医学センター倫理委員会の承認を得た後、前2群については二重盲検法で投与した。前日の夕食から同一のメニューにした被験者に、早朝空腹時内服させ、水分以外の摂取を禁じさせて、1、2、4、6時間後に肘静脈よりEDTA採血をした。4℃で冷却遠心後血漿を分離しLag time測定に供した。他の抗酸化作用をみる項目として、血清過酸化脂質、尿中8(OH)dG/クレアチニンも測定した。Lag timeは、超遠心法にて分取したLDLに、採取したヒト血漿を添加し、酸化開始剤であるアゾ化合物(V-70)添加後、37℃でインキュベートし、共役ジエンの検出波長である234nmの吸光度を経時的に測定する近藤らの方法に従った。検査値が固定した後、キーオープンを行い、paired t-test, one-way ANOVAで検定した。有意水準は0.05とした。

【結果】防風通聖散投与群では、投与後4、6時間目で、陽性対照群では、投与後6時間目で前値と比して有意な上昇を認めた($p < 0.05$, paired t-test)。プラセボ群では有意な変動を認めなかった。尿中8(OH)dG、血清過酸化脂質は有意な変化を示さなかった。

【結論】防風通聖散細粒が、ヒトにおいても抗酸化作用を発揮することが示唆された。このような抗酸化測定系は、生体での抗酸化能を測定するには適したものである。